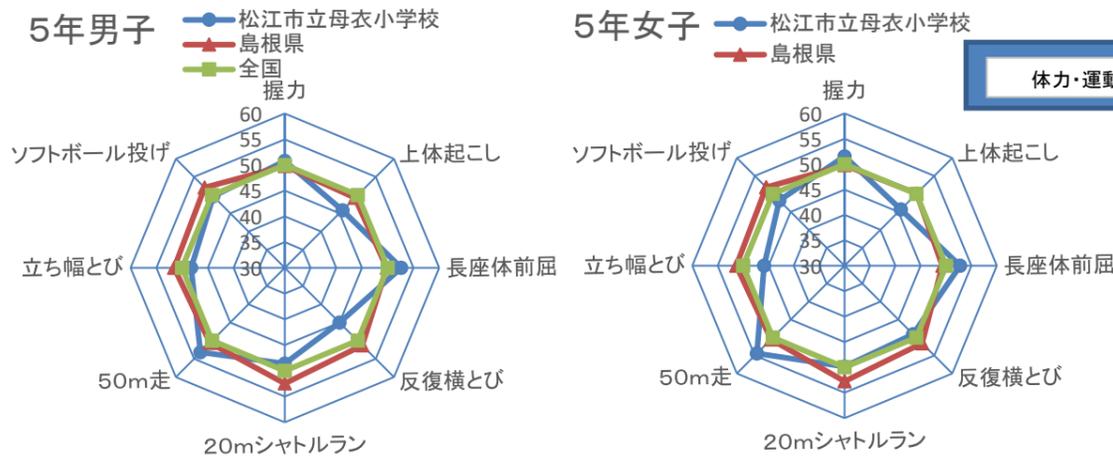


(1) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)

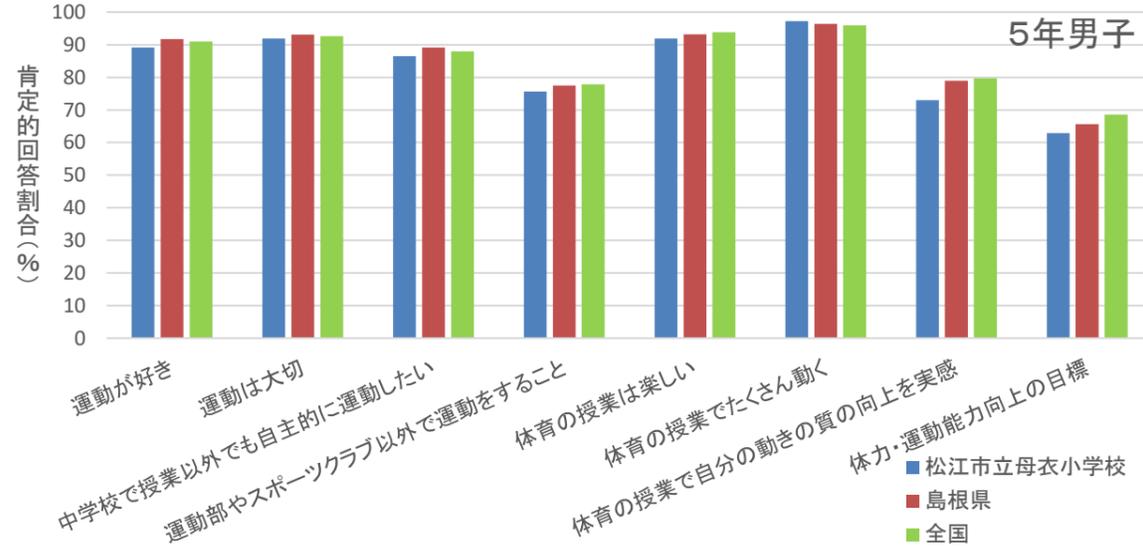


(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面

| |
|--|
| 強み |
| ○男子・女子ともに「握力」「長座体前屈」「50m走」が全国平均を上回っている 特に「走力」が強み。 |
| 課題 |
| ●男子・女子ともに「上体起こし」「反復横とび」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」が全国平均を下回っている。 ●男子では特に「上体起こし」「反復横とび」が、女子では「筋持久力」「瞬発力」が課題。 |
| 次年度の対策 |
| ○日々の体育授業の中で場づくりなどを工夫し、一人一人の運動量を確保する。 ○体幹を絞める感覚づくり、全身を使って跳ぶ感覚づくりを授業の準備運動に意識的に取り入れていく。 |

全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査<意識調査>の結果 (体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



② 意識面

| |
|---|
| 強み |
| ○男子では「体育の授業でたくさん動く」の割合が全国平均よりも高い。 ○女子では「運動が好き」「運動は大切」「自主的に運動したい」「運動部やスポーツクラブ以外で運動する」「体育の授業は楽しい」「自分の動きの質の向上を実感」の割合が全国平均よりも高い。 |
| 課題 |
| ●男子では「運動が好き」「運動は大切」「自主的に運動したい」「運動部やスポーツクラブ以外で運動する」「体育の授業は楽しい」「自分の動きの質の向上を実感」「体力・運動能力向上の目標」の割合が全国平均よりも低い。 ●女子では「体育の授業でたくさん動く」「体力・運動能力向上の目標」の割合が全国平均よりも低い。 |
| 次年度の対策 |
| ○前年度の運動能力調査などを参考に、自分の体力・運動能力をしっかりと認識する場面を設け、自分の目標をもちながら学習できるようにする。 |

(3) 令和4年度の方針【学校全体での取組】

- ① 体力向上や体育授業に関する校内研修会等の計画について
 - ・運動量を確保するためのマネジメント、児童の実態に合わせた教材や教具の工夫等を行っていく。
 - ・体幹の強化を意識した「母衣っ子体操」を中核に置くため、年度当初に体操のポイントを確認し、運動の基礎となる体づくりを意識する。
- ② 体育科授業の工夫・改善について
 - ・誰もがたくさん運動することができ、楽しさやできる喜びを味わうことができる体育をめざし、全職員の共通理解のもとで「めあての共有、学び合い」を意識した授業作りをする。
- ③ 体育授業以外の活動の工夫について
 - ・毎朝各学級で行う「母衣っ子体操(姿勢体操)」、鉄棒・登り棒などに取り組む「チャレンジカード」、冬季の体力づくりや技の習得に取り組む「なわとびチャレンジカード」などを全校で実施。
 - ・児童会活動との連携を図り、縦割りや色別を活用した遊びの場を設ける
- ④ 家庭・地域、近隣の学校・園等との連携、情報発信について
 - 【家庭との連携】
 - ・「体育ファイル」などを通して保護者にも子どもたちの伸びなどを感じ取ってもらう。
 - 【地域との連携】
 - ・放課後子ども教室等に体育施設を積極的に開放し、運動する場を提供する。
 - 【近隣の学校との連携】
 - ・卒業までに達成させたい力を共通認識し、連携した取組推進を図る。

